

「東日本大震災追悼」に係る生徒へ向けた校長講話

明日、3月11日は卒業式。3年生が久之浜中学校を巣立つ日です。くしくも5年前の同じ日、14時46分に東北地方太平洋沖地震が発生し、その直後に福島・宮城・岩手の太平洋沿岸地域は壊滅的な津波被害を受けました。ここ久之浜でも、たくさんの方が犠牲となられ、尊い命を落とされました。さらに、追い討ちをかけるように福島第一原子力発電所がすべての電源を喪失し、未曾有の原子力災害が起きていることが明らかになりました。

原発から半径30km圏内に久之浜・大久地区の一部が含まれていたため自主避難指示が出され、皆さんをはじめ多くの人々が一時避難を余儀なくされました。また、放射性物質が飛び散ることや放射線量の高さが心配されたため、久之浜の小中学生は地元を離れ、他校を借用しての教育活動を強いられました。その期間は、約半年にも及びました。

卒業式は、3年生にとって晴れの姿を保護者や地域の方々に披露する記念すべき日です。ですから、過去の辛い震災のことについて、校長式辞の中では直接的には触れません。しかし、あの震災の記憶は風化させてはなりません。多くの犠牲の上に私たちは生かされていることを改めて深く考える必要があります。そして、日本はもとより世界の国と地域の人々から温かい支援の手が差し延べられたことへの感謝を忘れてはなりません。そのことを東日本大震災から5年が経とうとしている今日、皆さんと再確認しておきたいと思って話をしました。

明日、卒業式を終えて、皆さんは自宅に戻っている時間帯になりますが、14時46分、どの場所にいても、そうしたことを噛み締めながら、犠牲になられた方々のご冥福を祈り、追悼の黙祷を捧げましょう。

平成28年3月10日　いわき市立久之浜中学校長　丹野　英雄